

# まいづる

次号の折り込みは11月16日(水)

〈舞鶴市ホームページ〉 <http://www.city.maizuru.kyoto.jp/>

※バーコードリーダー機能がある携帯電話は下のQRコードから。



## まいづる花図鑑

### センブリ



リンドウ科 見ごろ…10月～11月

日当たりの良い草地に生える1年草か2年草。茎は高さ5～25センチくらいで枝分かれし、暗紫色をおびる。葉は長さが3センチほどの線形で対生する。秋、枝先に紫色の線が入った白色の花をたくさんつける。花びらは5つに裂ける。全体に強い苦みがあり昔から胃腸薬として使用される。名前の由来は、湯の中で千回振っても苦味が残るといわれていることから。

協力=瓜生勝朗 市文化財保護委員(植物分野)

## 姉妹都市提携50周年記念 代表団がナホトカ市を訪問



現地企業で京都舞鶴港をPR(上)。記念式典で祝辞を述べる多々見市長(右)

ナホトカ市(ロシア)との姉妹都市提携50周年を記念し、10月11日～16日、舞鶴市代表団(団長 多々見良三市長、奥田保弘市議会議長、上西勝己商工会議所会頭ら7人)がナホトカ市を訪問。府、物流関係者、京都舞鶴港振興会で構成する経済ミッション(6人)も同行しました。

12日、オレグ・コリヤティン・ナホトカ市長をはじめとする同市の首脳と会談。また、同日、体育関係者と交流し、舞鶴市グラウンドゴルフ協

会から預かった用具一式をナホトカ市へ進呈しました。13日には、姉妹都市提携50周年記念式典・レセプションに出席したほか、16日までの滞在中、ナホトカ商業港やボストーチヌイ港などの港湾施設を視察したほか、水産業者や日系新車ディーラー、中古自動車市場を訪問し、京都舞鶴港の利用拡大に向けたPRを行いました。

「観光商業課」

## 11月6日、舞鶴かに漁が解禁

# 元気に歌って踊ってPR

11月6日(日)の「舞鶴かに(ズワイガニ)」漁の解禁を前に、10月26日文化公園体育館で開催された「舞鶴保育まつり」ではじめて「舞鶴かに」PRソングの踊りを披露。「舞鶴かに地域ブランド推進キャンペーン協議会」(府漁業協同組合、水産協会、観光協会)が、多くの人に「舞鶴かに」の魅力を知ってもらおうと作成。このたび、曲に合わせた振り付けが完成。この日集まった市内17の保育所(園)の園児ら約1,000人は、横歩きをしたり、手をささみのように動かしたりして元気に踊っていました。

今後、PRソングを活用し、さまざまな催しで「舞鶴かに」をPRしていきます。

《観光商業課》

チヨキまるも踊りに参加

## JR東舞鶴駅北口市有地

### 民間による活用へ

#### 条件を修正、事業者を再募集

市では、中心市街地のにぎわいを創出するため、JR東舞鶴駅北口市有地(浜町6番地1,3,024平方メートル)の土地利用事業者の募集要綱の条件を一部修正し、再募集することとします。

同市有地は、昨年11月に提出された東舞鶴駅北口市有地活用検討委員会(委員長 小野紘一・京都大名誉教授 9人)からの提言を踏まえ、活用方針を決定し、今年4月に土地利用事業者を募集。その後、東地区の事業者などの団体から「商店街への影響が大きい」「まちづくりや商業振興などの視点を含めた検討の場を設けてほしい」などの要望があり、事業者の選定を延期し、商店街や市民団体の代表、学識経験者などによる東舞鶴駅北口市有地意見交換会(座長 尾上亮介・舞鶴高専教授、13人)を計4回開催しました。

このたび、同意見交換会が取りまとめた意見書を踏まえ、民間活用を図る市の方針を決定。11月中旬に募集要綱を修正して再募集を行い、今年度中には事業者を選定する予定です。

再募集に係る詳細は決まり次第、広報まいづるなどでお知らせします。

◆活用方針 《民間による活用》◆業種、業態および土地利用条件の一部を修正し、再募集◆借地料の一部をまちづくりの観点から回遊策などの商店街振興に活用

詳しくは、都市計画課(☎66・1048)へ。

## 海軍ゆかりの魅力がたっぷり

### バス&遊覧船ツアーへぜひご参加

明治時代から100年余の時を経て、今も残る海軍ゆかりのスポットをバスと遊覧船で巡るツアーを実施。参加者を募集します。

海上自衛隊OBでつくる「舞鶴水交会」と観光ガイドボランティア「けやきの会」が案内する魅力たっぷりの特別コースです。

◆日時 12月3日(土)と4日(日) 10時30分～16時10分

◆集合場所 JR東舞鶴駅

◆内容 バスで移動し、ユニバーサル造船(舞鶴館)旧舞鶴海軍工廠本館、自衛隊北吸棧橋(発祥の地・舞鶴の「元祖肉じゃが」の振る舞いも)、赤れんが倉庫群、海軍記念館などを見学するほか、より住みやすく元気な地域づくりを進めていくため、その実現に向けて取り組もうとする団体を市が支援する「地域づくりサポート制度」のモデル地域に白浜台自治会の「支え合える地域づくり」と布敷自治会の「地域資源を活用した地域おこし」を選定しました。

9月1日～30日に募集していたもので、応募のあった7団体のなか

地域づくりサポート制度  
2団体の取り組みを選定

今後、市職員が2団体の地域と一緒に、今年度中にそれぞれの地域ビジョン(地域の将来像の実現に向けた方策や体制を検討)を策定。来年度以降、その実践へとつなげていきます。

詳しくは、企画政策課(☎66・1042)へ。